

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2022年11・12・23年1月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第628号

1986年8月から1989年3月まで、関西セミナーハウス宿直管理入室に住み込み学校に通った。あれから36年が過ぎた。来年兔、小生は選暦を迎える。

2022年9月23日〜24日、一泊二日のフォーラムが

関西セミナーハウスで開かれ参加した。講師は月本昭男さん。アカデミー運動の主題にふさわしい、講師と参加者との対話の会であった。

二日目の朝、本館3階から階下に降りる時、壁の絵画と窓からの眺めが36年前と変わらず、過去と今とが交差した。自分は年齢を重ねていた。驚いた。

「明治維新から敗戦までが77年間、敗戦から2022年までが77年間」だと、今年よく聞かされた。あと50年たつて振り返ってみても、今年はやはり節目の年であったと言われるかもしれない。その頃

私は確実にこの世に存在して
いない。

住み込みをしていた頃、当時の所長、平田哲さんから、「神の義」とは何かと問われたことがあった。この一言が、今でも私に問われ続けている。

アカデミー運動 過去 現在 未来



財団監事

柳井 一朗

神の義とは、神の正義のことであり、人間の正義ではない。この世において少数者、少数意見に耳を傾け、心の目を開くことである。多数意見に対してすべてにおいて、批判精神旺盛に検証することがいつも求められていると考

た。2022年10月7日〜8日、関西セミナーハウスで追悼と今後のアカデミー運動の再結束確認の会が催される。この日は主によって定められた日であると確信する。
生前のシュペネマンさんに、京都大丸で何度か出会った。当時あった1階の煙草販売店で、葉巻を買い求めておられた。葉巻をこよなく愛された。

自国のフォルクスワーゲン・ゴルフを愛車とされた。「そんなにドイツ車は良いのか」と聞いたら、「良い」と言われた。懐かしい思い出である。

える。

アカデミー運動は、決してこの世の主流になり得ない。しかし怯むことは全くない。イエス・キリストの生き様は少数者、少数意見に寄り添わ

る。

れた。だから、アカデミー運動は、過去、現在、未来において必要とされ、主によって祝福され続けているのである。
クラウド・シュペネマンさんが天に召され、1年半経つ

アカデミー運動の先人の働きに敬意と感謝の気持ちと共に、今日の社会状況のなかで、社会に発信、意見するアカデミー運動に微力ながら、関わりを続けていきたいと願う。
2022年9月30日記す
(日本基督教団洛西教会牧師)

関東活動センター 〈参加者寄稿〉

●2022年度 聖書を読む講座II(共催・早稲田奉仕園)
〈新しい聖書の学び〉

「マルコ福音書をジックリと読む」(第5期)

2022年4月〜2023年2月(8月休会、全10回)
講師 聖書学者 山口 里子さん
Zoomによるオンライン講座

里子さんの講座を受講して

平野 律子

毎月第二火曜日にズームで開講される「マルコ福音書をジックリ読む」の講座を受講しております。講師は山口里子先生ですが、先生ではなく「里子さん」とお呼びしています。初めはびっくり致しましたが、教師と生徒という上下の関係ではなく人と人との水平の関係を大切にされていることと、結婚後の苗字を男性の姓に合わせるという従来の法体系に違和感を抱かれていたことが徐々にわかり、今ではこの呼び方にとっても親しみを感じております。様々な



山口里子さん

解釈や考え方を「決め付けないうで自由に考える」ということが大切だと教えていただいております。
私自身は、民間企業を定年退職後、上智大学神学部の主催する夏期神学講座を五年間受講し、中高の宗教科の教員資格を取得しました。その後、同神学講座でご指導を頂いた久保文彦先生の聖書通読講座を受講し、久保先生から里子さんの講座のご紹介があり、二年前から受講する新参者です。

里子さんの講座では、聖書を書いた当時の人々の生活感覚をベースにした解釈が行われ、今までにない実感をもったお話を聞くことができ、しばしば「目から鱗」状態です。

イエスが大王であったことはよく知られていることだと思います。里子さんのお話で

は、イエスが当時暮らしていたガリラヤでは、大王といっても大多数は木工職人(日雇い労働者)で農業との兼業が多く、職人は身分制社会の中で農民よりも下位の位置づけだったそうです。従って、家を建てる大王という現代の職業感覚ではなく、農具や机や椅子を作る職人と考えるほうが近いとお話でした。また、印象的なことは、聖書の翻訳がいかに難しいかということです。ギリシャ語をどの日本語に充てるか、また、日本語訳では主語として原文にない「イエス」を用いる事例が非常に多いとの指摘がありました。まだまだ日本語聖書は発展途上、今後の里子さんの日本語聖書への一層のご尽力を期待しております。

「マルコ福音書をジックリ読む」に参加して 池田 純平

兵庫県にいた時の東京出張で、この講座があることを知りました。山口里子さんのことは、直接知りませんでした。が、私と同じ教会のメンバーから聞いて感じていたのは「フェミニスト神学」のイメージでした。だから、実は初めは自分には関係ないか

は、イエスが当時暮らしていたガリラヤでは、大王といっても大多数は木工職人(日雇い労働者)で農業との兼業が多く、職人は身分制社会の中で農民よりも下位の位置づけだったそうです。従って、家を建てる大王という現代の職業感覚ではなく、農具や机や椅子を作る職人と考えるほうが近いとお話でした。また、印象的なことは、聖書の翻訳がいかに難しいかということです。ギリシャ語をどの日本語に充てるか、また、日本語訳では主語として原文にない「イエス」を用いる事例が非常に多いとの指摘がありました。まだまだ日本語聖書は発展途上、今後の里子さんの日本語聖書への一層のご尽力を期待しております。

御子のご降誕をお祝いし、新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢の影響のみならず、内外ともにいつそう混沌のなかにあります。みなさまの上に、飼葉桶の幼子を通して語られる希望が豊かにとお祈り申し上げます。

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

評議員

- 木原 活信 理事
小原 克博
原 牧人
増田 琴
山本 俊正
横野 朝彦
石田 光男
榎本 栄次
戒能 信生
神崎 清一
神田 健次
神保 正男
黒岩 裕二
柳井 一朗(五十音順)

関東活動センター

関東運営委員長 戒能 信生
所長代行 原 牧人

関西セミナーハウス活動センター

関西運営委員長 小久保 正
所長代行 榎本 栄次
経営委員長 神崎 清一
館長 森口 明洋
事務局長 神崎 清一

本部事務局

財団職員一同

・現在「はなしあい」は季刊であるため、少し早めのご挨拶をさせていただきます。

も、と思っていました。です 「イエスが語ったことの真意」が、ポスターに書いていた を探ることにとても興味を湧

き、参加したいと思うようになりませんでした。

東京で開催している時は参加ができませんでしたが、2年前にオンラインで受講できるようになったのを知り、参加しました。日中働いている人を考慮した時間帯には助かっています。

講座は、まさに「じっくり」でした。言語であるギリシャ語の意味を、丁寧に日本語にしながら、時代の制約、社会状況なども知りながら聖書を読むことで、張り巡らされたフィルターが外されて、不可解に思えたイエスの言動も整理されて、イエスが現代に立ち上がってくる感覚を覚えます。それは同時に自分が、現代でいかに父権性社会の中にあるか、またそれを無自覚に受け入れているかにも気付かされ、イエスの生きていた時代とリンクしたからかもしれない。

講座は、里子さんの教える内容だけではなく、受講者による質疑応答もさまざまな感じ方を知ることができて面白いです。この講座では、一つの解釈を絶対化しないとしています。質問した人に「あ

なたはどう思うの？」と言う里子さんからの問いかけは、まさに講師の考えが絶対的なではなく、個人が感じたものを尊重してくれている気がします。質問者だけではなく、毎回自分はどう感じるのかも考えさせられます。

私の今の目下の課題は、こ

●2022年度 関東フォーラム「宗教対話」I
 〈連続講座〉アンコール開講 (共催：早稲田奉仕園)
 「日本キリスト教史を読む」II (大正篇)
 講師 日本基督教団千代田教会牧師 戒能 信生さん
 2022年5月〜12月第2木曜(8月休会)全7回
 Zoomによるオンライン講座

「日本キリスト教史を読む2 大正編」を受講して

松浦 茂長

僕はカトリックで、取り上げられる方々の名前すら知らない、予備知識ゼロの聴講者であることをお断りしておきます。一人目は山室軍平。この名前はかろうじて知っていましたが、救世軍の指導者と



戒能信生講師

の「新しい聖書の学び」を持つ。創設した中田重治。僕の遠い親戚がホーリネスの牧師で投獄されたと聞いていたので、この回を楽しみにしていました。中田には、言葉と理性を超えて、聞き手の霊肉に直接働きかける強力なチャーマンの力リスマがあつたこと。感極まった信者たちは、抱き合つて泣き、手を携えて踊り歌い、声が潰れるまで祈つたこと。こんなダイナミックな聖霊の働きは目撃したことがありませんが、ロシアの正教寺院の悪魔払いで、建物の外まで泣き声、叫び声が聞こえたのを思い出しました。正しい信仰をもったチャーマンには、回心をうながす奇跡的な力があるのでしよう。

三人目は、プロテスタント本流の高倉徳太郎。青年時代から死ぬまで「自我」に苦しんだとのこと。振り返って見ると「蜻蛉日記」は、自己意識の苦しみからどうすれば逃れられるかの苦悶の記録です。道元は「我執を離れよ」と口を酸っぱくして忠告しましたし、明治後半以後の文学は、どれだけ自我の醜さを曝け出すかを競い合いました。

レジメは、豊富な資料に基づき、詳細な年譜、それぞれの人物について、受洗や回心の経過、神学や信仰理解、主要な著作の紹介、残された課題など、非常に読み応えのある内容となっている。

次に、人物の取り上げ方として戒能講師の特徴を二点ほど挙げてみたい。第一に、登場人物に対し公平に目配りし、プラス・マイナス面双方から論述しておられるということである。第二に、日本に

二人目はホーリネス教会を創設した中田重治。僕の遠い親戚がホーリネスの牧師で投獄されたと聞いていたので、この回を楽しみにしていました。中田には、言葉と理性を超えて、聞き手の霊肉に直接働きかける強力なチャーマンの力リスマがあつたこと。感極まった信者たちは、抱き合つて泣き、手を携えて踊り歌い、声が潰れるまで祈つたこと。こんなダイナミックな聖霊の働きは目撃したことがありませんが、ロシアの正教寺院の悪魔払いで、建物の外まで泣き声、叫び声が聞こえたのを思い出しました。正しい信仰をもったチャーマンには、回心をうながす奇跡的な力があるのでしよう。

次に、人物の取り上げ方として戒能講師の特徴を二点ほど挙げてみたい。第一に、登場人物に対し公平に目配りし、プラス・マイナス面双方から論述しておられるということである。第二に、日本に

おけるキリスト教伝道という課題を念頭に、つねに民衆の視点に立って論じていることを強調しておきたい。抽象的な理論ではなく、実践的な伝道の現場を重視しているといったらよいであろうか。常識的な評価とは異なるいかに戒能講師らしい発言はとも新鮮である。

私は2019年5月開催の第三期(昭和篇)に初めて参加した。約8カ月、月に一度早稲田に通う楽しい学びのときであった。最終回後の懇親会では第一期(明治篇)、第二期(大正篇)の再講の機会を是非設けてほしいとの強い要望があった。コロナ禍の中、2021年4月日本クリスチャン・アカデミーから「ZOOM」でアンコール開講!「日本キリスト教史を読む」I(明治篇)とのチラシを見たときは嬉しかった。講座が再開され全国の希望者が受講できるようになり、ZOOMならではのメリットも大いにあるように思われる。思いがけず、明治篇(第一世代)、大正篇(第二世代)と受講を続け現在に至っている。このような貴重な学びの機会を与えて

いただき心から感謝している。

関西セミナーハウス活動センター

●2022年度 修学院フォーラム「福祉」第2回
 「コロナ禍と戦禍のあいだで、ケアの倫理を考える」
 講師 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授 岡野 八代さん
 2022年7月9日(土)
 関西セミナーハウスとオンライン



岡野講師は最初に、コロナパンデミックの2年間を通じて、日本社会のケア不足が露呈したことを指摘した。パンデミックの経験は、ケアを必要としない人間など存在しないことを再確認させ、ケアの必要性と重要性を可視化させる出来事であった。ケアワークやケアが日常的な出来事であるにもかかわらず、それを取り巻く社会状況に対して私たちが無関心であることを想起させた。それはまさに、ケアに従事している者たちの声を政策や政治に反映できない政治の姿でもあった。コロ

ナ禍と戦禍(ウクライナ)の狭間で、ケアとはどのような営みなのか、「ケアの倫理」とは何かについて、多様な角度から解説、説明がなされた。「ケアの倫理」の背景には、女性たちが家庭内で強制されてきた歴史、すなわち家事労働・育児といった経験と葛藤があったことを説明した。この負の歴史に関連して、男女平等とジェンダー平等との違いについても言及された。前者がいかなる領域においても男女の同数の獲得を目標とするのに対して、後者は、ジェンダー規範が支えている価値観を転換することを目指すとした。ケアの担い手が女性による無償労働に委ねられ、それらは家長長制、新自由主義、自己責任論などによって強化されてきた。ジェンダー平等とは、セクシュアリティや生

殖、女性らしさを理想とする規範を問い直すことから始まる。また、家事・育児労働を家庭内における女性の役割であると性別役割分業の抑圧から女性を解放することを意味している。

岡野講師は、ケア実践の特色、ケア労働の社会的評価の低さ、ケア報酬がなぜ低いのか等をフェミニニスト経済学の知見を参考にしながら解説した。さらに、憲法9条とケアの関係、安全保障(security)とケアの相違点、資本主義における「水とダイヤモンド」

のパラドクス(誰でも必要なら水より、特定な人が必要とするダイヤモンドの方が価値が高い)を例として「ケアの価値」について説明した。

第2部では講演内容に基づき、医療現場におけるケアの実践などが参加者より紹介され、活発な議論が交わされた。パワーポイントによる統計資料の紹介に加えて、上野千鶴子『家長長制と資本制』、ジョアン・トロント『ケアするのは誰か?』など豊富な文献が引用、紹介され、豊かな学びの時となった。

●2022年度「開発教育セミナー」第2回

「自分たちで『公共』をつくりなおす」
 ～時代の曲がり角を突破する力を求めて～

講師 岡山大学 松村 圭一 郎さん
 2022年7月16日(土)～17日(日)
 関西セミナーハウス

参加者から出た意見に応答する、対話形式で終始セミナーを進行された。

およそ2年ぶりに1泊2日・対面でのセミナーを関西セミナーハウスで無事開催することができた。オンラインが主流化する昨今、コロナ禍で奪われた「対話」がセミナーに還ってきた。その仕掛け人となったのが、今回の講師松村さんである。松村さんは、各セッション冒頭のワークで

セミナーは「国家目標を考える」ワークから始まる。

「国家」という大きな枠組みから考えることとなった参加者は、戸惑いながらもワークを達成する。松村さんは、その戸惑いの正体が「主語がな



「い」こと、すなわち「わたし」がどこにもいない社会が前提となつているところにあるという。経済の発展は、つながりを断ち、均質・匿名性を帯びた社会をつくつていった。人と関われば面倒事は増えるし、時間も労力もとられる。私たちは、身近に起きるトラブルを避け、近くの人と直接関わるのがなくても、便利で快適な暮らしができる社会に生きている。

しかし、勤務先で起きたトラブルや、地域で始まった人と人がつながる試みの話がぼつりぼつりと参加者から共有されるうちに、やろうと思えば方法はあること、少しづつより良く変えていけることに気付かされた。対話が続けるうちに、参加者は「わたし」という主語を取り戻し、それぞれのフィールド・経験の地続きで、自分のアクションを考えられるようになり、勇気



をもらった。重ねられた対話の中からたくさんの気づきができるセミナーとなった。

●2022年度 修学院フォーラム「社会」第3回
 「今なお差別される沖縄」
 講師 日本キリスト教団佐敷教会牧師 金井 創さん
 2022年8月6日(土)
 関西セミナーハウスとZoomによるリモート

今回は、沖縄から金井牧師を会場に迎え、対面とZoomの併用で進めることができた。金井牧師は16年の経験から今見えてくるものを以下のように話された。

1950-60年代沖縄はアメリカの核基地戦略の拠点であった。ピーク時には1300発もの核兵器が置かれていた。日本は危険な核兵器を足元に置くことを拒否し、沖縄に集中させることでその抑止力に依存してきた。その差別構造は今に引き継がれている。辺野古の新基地建設、南西諸島への自衛隊ミサイル配備、宮古島や石垣島を

生まれ、変容の可能性を実感できるセミナーとなった。

想定した離島奪還作戦、9日に開始される土地利用規制法。この運用によっては、45万沖縄県民すべて政府の監視下に置かれかねない。住民を巻き込んだの地上戦が行われた沖縄戦の悪夢が再来しそうな不安を覚える。ミサイル配備は決して防衛のためではない。むしろそこが標的になる危険を呼び込む。多大な犠牲を払って体験者が残してくれた沖縄戦の教訓は「基地のあるところに戦争はやって来る」そして「戦争になったら軍隊は住民を守らない」というものだ。迫り来る戦争の足音に怯え、戦争を想定して逃げることを考えるのではなく、今戦争につながるものを拒否すること、全ての軍事基地撤去を求めて行動する、非暴力で平和を創ることがキリスト者の使命ではないだろうか。後の質疑からもこれは沖縄



のことはなく、日本全体の課題であることを痛感した。取り組みへの質問に対して「連戦連敗です」と言いなが

●2022年度「開発教育セミナー」第3回
 「難民」から世界の今を考える
 「一人ひとりの物語からはじめよう」
 講師 オックスフォード大学 国際開発学部准教授 小俣 直彦さん
 2022年9月3日(土)〜4日(日)
 関西セミナーハウス

講師の小俣直彦さんがイギリスから無事帰国され、念願の対面ワークショップが実現した。

初めにクイズで基本的な難民問題の理解を深めた。難民を生み出している国や受け入れ国は途上国に集中し、長期化していることが益々問題解決を困難にしていると小俣さんは指摘する。

続いて、アフリカ、チャドの難民キャンプで暮らすスーダン難民の家族とチャドの市井の家族の1週間分の食料の

ら、工事を大幅に遅らせている。楽観的な粘りを感じさせられた。

写真を手掛かりに、難民キャンプの生活を想像した。小俣さんは1年余りガーナのブジュラム・キャンプで生活し、見聞きした難民の暮らしが写真とともに紹介された。事態の長期化により先進国の関心が薄れ、支援が不足しているが、人々は手段をつたかに生活している。富と力の格差も生じるが、人々が生きていく姿にもキャンプの社会構造にも、日本社会との共通点が多いと気づく。

2日目は3人の難民の体験から私たちの社会と難民問題とのつながりを考えるミニワークから始めた。日本の難民認定率は世界に類を見ない低さで推移し、収容先の入管施設の差別的な対応や虐待は

プログラム案内

◆関東活動センター

いずれも Zoom によるオンライン開催

■2022年度 関東フォーラム宗教対話Ⅳ 第8回<柏木義円公開講演会>(共催)「義円の日記を読んで」

主催: 柏木義円研究会
発題: 戒能信生さん、大久保正禎さん、川口葉子さん

日時: 11月19日(土)14:00~16:30
参加費: 無料

■2022年度 聖書を読む講座Ⅱ (共催: 早稲田奉仕園)

「マルコ福音書をジックリと読む」第5期

講師: 山口里子さん (聖書学者)
日時: 4月~2023年2月(8月休) 第2火曜 18:30~20:00

参加費: 全10回8,000円(学生4,000円)

■2022年度 宗教対話Ⅰ (共催: 早稲田奉仕園)

<連続講座> アンコール開催 「日本キリスト教史を読む」Ⅱ(大正篇)

講師: 戒能 信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

日時: 5月~12月(8月休)、第2木曜 14:00~16:00

参加費: 全7回6,000円(学生3,000円)

■2022年度 宗教対話Ⅱ (共催: 早稲田奉仕園)

連続講座「キリスト教文学に学ぶ」Ⅰ 講師: 柴崎總さん (文芸評論家)

日時: 4月~2023年3月(8,12月休) 第3水曜 14:00~16:00

参加費: 全10回8,000円(学生4,000円)

■2022年度 宗教対話Ⅲ (共催: 早稲田奉仕園)

連続講座「超入門! 西洋美術史-キリスト教を中心として-」

講師: 太田智子さん (山梨県立美

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本キリスト教アカデミー
代表理事 中村 信博

本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
E-mail: info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail: info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail: office@academy-kansai.org

術館学芸員)

日時: 5・7・8・10・11月、2023年1・2月、最終月曜13~15時
参加費: 全7回6,000円

◆関西セミナーハウス活動センター

■2022年度修学院フォーラム「いのち」第3回「禍にある霊性-今を生き延びるためのアーカイブ」

講師: 講師: 榎本 空さん
日時: 11月5日(土)13:30~15:50

参加費: 1,500円 学生 500円
方法: 会場関西セミナーハウスとZoom併用

■2022年度修学院フォーラム「社会」第4回「性と生を考える-キアア神学の視点から」

講師: 堀江 有里さん (信仰とセクシュアリティを考えるキリスト者の会(EGQA)代表)

日時: 12月3日(土)13:30~15:50
参加費: 1,500円 学生 500円

方法: 会場関西セミナーハウスとZoom併用

第5回「エネルギーを考える」第10回「原発帰還に未来はあるのか」

講師: 細川弘明さん (高木仁三郎市民科学基金理事)

フランク・レーヴェカンブさん (ドイツルートヴィヒスハーフェン経済大学教授)

木村護郎クリストフさん (上智大学外国語学部教授)

日時: 2023年1月8日(日)~9日(月・祝)

会場: 関西セミナーハウス

■2022年度開発教育セミナー

第5回「わたしが見つけた多文化共

国連から国際法違反だと指摘されている。小俣さんは、「隣人として耳を傾け、等身大の姿を伝えることで、現状の改善に貢献したい。私たちが彼らを尊重しないなら、私たちも尊重されない社会になってしまう」と語る。難民問題は足元の問題とつながり、これからの社会にしていくなか、何ができるのかを考える機会になった。確かな分析と対話的な姿勢に支えられ、またいつか共に学び合いたいと思いつながら閉会した。

生とともに生きる社会のかたちをみつつけよう!」

講師: 藤井 邦洋さん (NPO 法人ともにいきる宝塚理事)

日時: 11月12日(土) 16:00~13日(日)12:00

第6回「気候危機から目をそらさない! ~待たなしの10年へ歩み出すときは今~」

講師: 伊与田 昌慶さん (国際環境NGO 350.org Japan)

日時: 12月10日(土) 16:00~11日(日)12:00

参加費: 11,000円 (泊食込、宿泊税別途)

会場: 関西セミナーハウス

賛助会費・寄付金報告

2022年7月1日~9月30日 (順不同・敬称略)

◆財団本部
日本キリスト教アカデミー
再興のための募金(寄付)

匿名
京都みぎわキリスト教会
全国いすゞ自動車関連労働組合連合会
全ダイハツ労働組合連合会
日本基幹産業労働組合連合会
全日本自動車産業労働組合連合会
総連合会
全トヨタ労働組合連合会
只野 哲
長谷川 義紘
JAM
全国本田労働組合連合会
根岸 宏邦

匿名
島田 恒
全日産・一般業種労働組合連合会
株式会社田中工務店
全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会

武藤 高司
全日本電線関連産業労働組合連合会
野田 純一・恵津
日本製鉄労働組合連合会
全神戸製鋼労働組合連合会
黒岩 裕二
薛 恩峰

◆関東活動センター
賛助会費
戒能 信生
寄付金
許 昌範

神学生プログラム寄付金
戒能 信生

◆関西セミナーハウス活動センター
賛助会費
吉田 力
南 和子
君村 昌
奈倉 道隆
丸山 まり子
山岡 義生
伏木 信次

岡安 茂祐
陶村 世佳子
桜井 希
都木 かおり
徳丸 延子
岡山 孝太郎
真鍋 裕子

寄付金
柳井 一朗
藤田 敦子
早川 良彌
湖月 美和
日本基督教団京都葵教会

匿名
鳥井 清司
水野 融
山岡 義生
武山 泰子
島田 恒
日本基督教団和歌山新生伝道所

姫野 真知夫
真鍋 裕子
大島 偕美
以上感謝をもってご報告申し上げます。

(前ページより続く)